

7 海知^{かいち}のシンカン祭り [無形民俗文化財]

[所在地] 天理市海知町

[保持団体] 海知町自治会

[概要]

天理市海知町の倭恩智^{やまとおんち}神社では9月第1週の土日を挟んだ3日間にシンカン祭りが行われる。初日の朝から、氏子から輪番で選ばれた大当屋（オトウヤ）と補助役の小当屋（コトウヤ）、前年と来年の大当屋が当年の大当屋宅に集まり、朝から祭りの準備を行う。夕食後、庭の四方に竹を立てた結界^{けっかい}の中で、釜に湯を沸かして、巫女の湯立神楽^{ゆたてかぐら}がある。

二日目は宵宮^{よいみや}とされ、午前^{にないもち}に神饌^{はなごく}の用意をする。荷餅^{なないろ}、花御供^{ごく}、七色の御供^{おしき}を折敷の上に順に載せた神饌^{しんせん}10膳を神饌箱に納める。午後からは、氏子代表、神主、白紙に包んだ洗米を括りつけた御幣^{ごへい}を持った両当屋、神饌箱の順に大当屋宅より神社へ渡御^{とぎよ}をする。夕刻、神前で巫女の湯立が行われた後、氏子に対し、邪気を祓い長寿を祈る巫女の神楽が続けられる。

三日目の祭りでは、朝から蒸し飯を皿に丸く盛った蒸御供^{むしごく}をつくる。両当屋は、柳の小枝に根つきの稲穂^{はっほ}（初穂）を括りつけた御幣を持ち、蒸御供の上に花御供を重ねた神饌と甘酒を納めた神饌箱を担ぎ、神社へ渡御する。

シンカン祭りは、安永6年（1777）の記録等から古くは特定の家から成る宮座^{みやざ}で担われていたことがわかるが、昭和11年からは村全体で当屋を出すようになった。古くは両当屋は、竜田川で禊ぎをし、大当屋の門口に榊^{しょうじんけっさい}2本を立てて氏神の分霊を迎え、精進潔齋して祭りに奉仕した。現在でも大当屋宅での巫女の湯立や特殊神饌^{とくしゅしんせん}を用意するなど、奈良盆地^{みやざまいし}の宮座祭祀の特徴をよく残している。



大当屋宅での御湯



七色の御供